



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 27号

海苔生産道具の新寄贈資料の紹介

海苔生産の道具の寄贈を呼び掛けたところ、多くの方々からご連絡を戴き、新たな資料を寄贈いただきました。今回お預かりした資料の中から主なものをご紹介します。

初めに、大森東の茨田勝美氏から寄贈いただいた道具をご紹介します。茨田氏宅は、明治37年生まれの父親が分家して旧呑川沿いに居を構え、勝美氏の兄と親子二代で海苔生産に携わっていました。

分家した当時は周辺は3軒ほどしかなく、戦後、勝美氏の幼少の記憶でもまだ海苔生産の家が点々とあるだけでした。周りは畑が広がり、自家消費用の南京豆やとうもろこしなどを作っていました。

現在、海苔乾し場は駐車場へ変わり、低湿地の面



影を残していた池も住宅が立ち並んでいます。

当時の母屋と海苔の乾燥小屋がそのまま残っていて、海苔の道具は乾燥小屋の中に保管されていました。伺った時はおおかた片付いた状態でしたが、海苔の道具が入った平箱や茶箱が積み重なり、梁にはロやカイが並び、まるでタイムカプセルのようです。

そして、小屋の片隅にはテンマ（ベカブネ）の姿がありました。かつては大森だけで数百艘もあったテンマですが、漁業権放棄から50年の歳月が経ち、姿を消したと思われていました。小屋の暗がりの中に、どっしりと黒光りする姿が浮かび上がって見えました。



ふるさと館へ運び、水で洗い流すと美しい木目が現れました。元船大工（東造船）の小島延喜氏と共に館に保管しているシキ（船底）の型板を当てると、ぴった



↑テンマは台車に乗せ、浜辺を通って運びました。

りです。小島氏は「東造船でこしらえたテンマだ」と、50年振りの再会を喜び、嬉しそうになでていました。

他には、最後の海苔生産の「昭和三十八年」と墨で書かれた海苔簀の束がありました。また、昭和37年に奈良輪漁業協同組合の漁場の種つけ（海苔の胞子を付ける）許可証、ボータ、綿入れ、股引などの作業着やモーター付きの海苔切り機など多数の道具を寄贈いただきました。



次に、大森東の田中氏の道具をご紹介します。先代まで海苔生産を営んでおり、小屋の中に多数の道具が保管されていました。

戦前の竹ヒビの時代に使われていた海苔下駄、海苔船の進水式の旗、水ダル、海苔簀編み台、網針、半切桶、海苔乾し枠などを寄贈いただきました。

（まこ）



次に、大森東の伊藤氏から寄贈いただいた道具を紹介します。

・刺し子のポータ

大正3年生まれのお母さんが自分で縫い、海苔とりのときに着ていたものだそうです。右肩にはボタンが付いており、ゴムの水よけをかけて使いました。前身ごろの上にある黒いしみは竹ヒビの油がついた跡だということです。ポータは生地が厚いために暖かく、竹ヒビの枝もささらなかったそうです。このようなお話を聞くと、このポータを着て海苔とりをしている様子が目に浮かび、感慨深いものがあります。



・櫓

お母さんが自分の実家から譲り受けて使っていたもので、生前、「私が亡くなるまで捨てないでくれ」と仰っていたそうです。とても大事にしていたことがわかります。

(小山)



海苔網づくり 戦後の海苔養殖は、竹ヒビから海苔網へと変わり、生産量も飛躍的に向上しました。海苔網づくりの技術には、海での作業の知恵が詰め込まれています。この編み方を、日々の生活に活かしてみませんか。

海苔網は、海苔を育てるための仕掛けです。

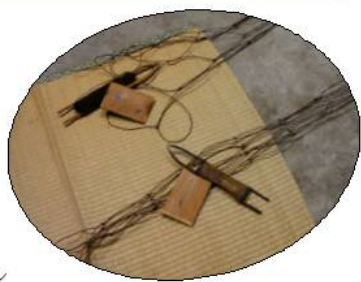
かつては、目板と網針(あばり)という道具を使い、シュロ縄やパームヤシなどの材料で編みました。夏や雨の日など、時間があればいつでも作業をしたそうです。シュロ縄はケバが固く、編む時は手が痛くて苦労したとのこと。

当館では、海苔網を編む技術を学び、暮らしに活かす催し物を行っています。今回はペットボトルホルダーを作ります。他にも、ボール入れや緑のカーテンの網など、あなたのアイデア次第でさまざまな作品を作ってみませんか？

■海苔網で袋づくり■

日時：6月17日(日)10:00~15:00

対象：中学生以上/定員：先着20名/参加費：無料/持ち物：昼食
電話にて申込受付中。



↑目板と網針(あばり)

寄贈資料一覧

平成24年2月から5月までに、下記の資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。

- ①海苔下駄、乾杵、水ダル、半切桶、簀編み台、押切り、網針、進水式の旗など 計28点
- ②ポータ、櫓 計2点
- ③道具箱、餅きりまな板など 計7点
- ④ポータ 計2点
- ⑤「大森海苔漁業資材保存会」作成『保存資材解説』ほか 計2点
- ⑥鋏、木槌 計2点
- ⑦櫓、焼印、半切桶 計3点
- ⑧テンマ、海苔切り機、羅針盤、海苔種場取扱証、手縄、カンテラ、ランプ、滑車、焼印、焼版札、マキハダ、手形、せ落とし、穴あけ鐙のみ、ポータ、綿入れ、綿入れ袖なし、被布絆纏、平箱、茶箱、飛行機包丁、海苔切り包丁 計63点
- ⑨櫓、櫓、海苔切りまな板 計3点

お預かりした資料は、当館で展示、活用、また貴重な文化財として保管させていただきます。また、新収蔵資料は、永く保存するために虫害予防として5月末にくん蒸を行いました。

大田区では、引き続き海苔生産の道具や資料、写真などを探しています。お持ちの方は、ぜひ当館までご連絡ください。
TEL 03-5471-0333

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」27号
平成24年6月1日発行
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347